





研究者名※	古川 元也	学位※	修士(文学) (慶應義塾大学)
所属※	文学部 史学科	職名※	教授
連絡先	furukawam@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/7000019408">https://researchmap.jp/7000019408</a>		
研究分野※	日本中近世移行期史 博物館学		
研究キーワード※	中世史 文化史 宗教史 都市史 史料研究 交流史		
共同研究・競争的資金等の研究課題	課題番号:16K03032 2016~2018年度 学研究費補助金基盤研究(C) 研究代表者 研究課題:中世東国における寺院什物帳(文物台帳)と請来遺品(唐物)の発展的研究 課題番号:19K00944 2019~2022年度学研究費補助金基盤研究(C) 研究代表者 中世畿内西国における寺院什物帳(文物台帳)と請来遺品(唐物)の統合的研究		
社会貢献・産学官連携活動等	課題番号:26220401 研究課題:宗教テキスト遺産の探査と総合的研究—人文学アーカイブス・ネットワークの構築—2014 ~ 2018年度 科学研究費補助金基盤研究(S) 2016年度より研究分担者(研究代表者は名古屋大学阿部泰郎) 2019年9月より (一社)鎌倉中世史研究センター理事 2020年4月より 神奈川県文化財協会役員(幹事) 2017年4月より 大磯町運営委員会委員		
受賞歴	2003年10月 神奈川県総務部長表彰(団体・地方自治体における独立行政法人制度研究) 2016年3月 神奈川県教育委員会職員功績賞(団体・博物館における特別展「国宝一遍聖絵」主担当者として) 2016年4月 神奈川県博物館協会表彰(個人)		

研究領域	日本中近世移行期史 博物館学	(SDGs)	 
研究テーマ※	史・資料や文化財などのモノにこだわった歴史学研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 日本の中世社会(12世紀半ばから16世紀を措定)に受容され、今日の日本文化形成にも多大な影響を与えている大陸からの請来品、いわゆる「唐物(からもの)」が、実際にはどのような文物であり、どのような意識を持って社会に受けとめられていたかを、主に寺社に伝わる史料を用いて明らかにしようとする比較史(資)料論であり、東アジア的視点に立つ文化交流史の研究である。</p> <p>【応用例、研究の展望】 本研究の成果は究極的には請来遺品(宋・元舶載文物・唐物)と寺院什物帳(文物台帳)との史(資)料比較検討・検証を通じた資料論であり、究極的には美術史学、考古学などの諸分野に資する、周辺分野への広がりを持つ研究である。</p> <p>【研究方法の特色】 1. 中世社会に受容された「唐物」の実体を、政権がおかれた中世畿内、西国領域の史(資)料を中心に明らかにする点。中世のモノ資料を扱うという点では、職務、所轄が日本中世史学、博物館学であることが特色となる。 2. 禅宗寺院のみならず、中世寺院に残された什物帳(文物台帳)等を広範囲に横断的に検討材料とする点。これまでの寺院史料を扱ってきた研究経験に基づいている。 3. 後世の改変や編纂を受けやすい什物目録に対して、史料に対する検証を厳密に行ってゆく点。これまで行ってきた厳密な史料批判に基づく史料論の視角が特色となる。 4. 近年、美術史学、考古学の分野で大きく深化した研究成果との接点を見出そうとする学際研究である点。博物館学芸員としての職務経験や、国立歴史民俗博物館共同研究員の経験が特色となる。</p>		
本研究関連特許・論文等	・ 2015年3月『中世鎌倉地域における寺院什物帳(文物台帳)と請来遺品(唐物)の基礎的研究』(平成24~26年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(一般))研究成果報告書, pp.1-266)・		
共同研究・外部機関との連携への期待	・共同研究の際にはご連絡ください ・上記研究課題に即応する研究連携に対応します		